

児童が主体的・対話的に取り組む学級活動  
～児童が思いを高め、目的を共有し、解決していくための手立て～

新潟市立大形小学校

本川 貴光 (平成22年度)

主張

本発表では、6年生が1年生とのお楽しみ会を計画し、運営した実践を紹介する。なお、本実践では、主体的な学びを行う児童の姿を「学級の実態や自己の現状から課題を見だし、その解決に向けて学級で決めた活動に取り組む姿」「活動を振り返ってよい点や改善点に気づき、新たな課題の発見や目標を設定し、次の活動に向けて意欲をもつ姿」とし、対話的な学びを行う児童の姿を「同学年や異学年など多様な他者と関わり、話し合い、協働する姿」とした。このような児童の姿が現れることを目指し、以下の5つの手立てを講じた。

- (1) 児童の日々の言動や振り返りをもとにした活動設定
- (2) これまでの1年生との関わりの振り返り
- (3) 活動の目的を考えさせるための話し合いの場の設定
- (4) 学級会における「よい点」「心配点」「心配点を解決するためにできること」の共有
- (5) 学級の課題をもとにした目指す姿の焦点化

本実践を通して、私は、児童が主体的・対話的に学級活動に取り組むためには、「①児童の言動をよく観察し、思いを担当が把握し、その思いを学級全体に広げていくこと」「②児童が学級の実態や課題に気づき、それらが解決できるような活動を考え、決定し、実践し、振り返るという学習過程」が大切であると考えた。

学級活動が、学級全員で一つのことに向かい、アイデアを出し合ったり力を合わせたりする場となり、児童にとってよい学びの場となるよう、本実践を通して学んだことに取り組み続けていきたい。